

福祉

welfare



子ども支援、子育て応援

子どもの貧困対策、引きこもり対策、障がい者などの立場の弱い人達の可能性を高める施策に取り組みます。

今
現状

- 子ども貧困支援の拠点「こどもの城」を63箇所開設
- 農福連携センターの開設による障がいのある方の農業分野への社会参加支援を実施
- 障がい者雇用に取り組む企業へのサポートを実施
- 「きょうとフードセンター」の開設
- 精神に障がいがある方の地域生活を支援するため、英国の「ケアラー制度」をモデルにした家族支援の仕組みの構築中

これから
今後の課題

- ✓ 子育てサポートのワンストップ化
- ✓ 家庭教育支援事業の取り組み強化
- ✓ 障がいのある方の就農促進に向けたキャリアパスの強化
- ✓ 精神に障がいがある方の雇用促進
- ✓ 多様な対象者に、それぞれ求められる支援の具体化
- ✓ ひきこもりの5080問題の解消に向けた取り組み

高齢者が安心できる暮らし

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる「あんしん社会」を構築するため、医療、介護、福祉のサービスを一体的に提供する「地域包括ケア」の実現に向けて、介護予防体制を強化するとともに、京都地域包括ケア推進機構を中心にオール京都体制で取り組みます。

今
現状

- 社会福祉法人による高齢者の身体機能維持・向上等の取り組みに対する支援を実施
- 最期まで自分らしい暮らしを送ることができる社会を実現するため、療養する場所や医療・介護等が柔軟に選択できる環境と体制の構築を行っている

これから
今後の課題

- ✓ 健康寿命を延ばす医療・介護・予防・生活支援・暮らしを一体的に支援する仕組みづくり
- ✓ 一人暮らしの高齢者のサポート

防災

disaster prevention



河川の水害対策

安心・安全な暮らしを支える治水対策について、流域特性や土地利用計画を踏まえ、自然環境にも配慮しつつ計画的に推進します。台風被害からの早期復旧、再度災害防止（復旧だけでは被災が繰り返されるような場合の改善・予防）の緊急事業、防災情報・体制の強化など、ハード・ソフト一体となった治水対策によりいっそう取り組みます。

今
現状

- 普賢寺川の改修工事中
- 防賀川広域河川改修事業を着手中

これから
今後の課題

- ✓ 京田辺市、井手町、宇治田原町において改修が必要な河川が多く、府の財源が確保できていない状態である。

防災・減災対策

平成30年台風災害からの一日も早い復旧復興を目指すとともに、頻発する集中豪雨や南海トラフ地震等に備え、総合的な治水対策や耐震化対策など必要な防災・減災対策の強化に取り組みます。

今
現状

- 消防団員、消防団車両の整備などに対する支援を実施
- 災害時に府民一人ひとりが自らの安全を確保する行動がとれるよう、ハザード情報を随時更新するとともに、その活用について周知・啓発を実施

これから
今後の課題

- ✓ 災害時に市町村への府情報の伝達方法の検討
- ✓ 市町村に対して、防災計画の協力
- ✓ 住民に対する避難情報の伝達方法の検討
- ✓ 府民に対して、ハザードマップの周知徹底

京都府議会議員 <京田辺市・井手町・宇治田原町 選出>

北川たかし [きたがわ 剛司]

府政活動レポート 特別号 2018.12

北川たかし事務所 Takashi Kitagawa office

〒610-0313 京都府京田辺市三山木中央5-1-10

マンション竹長1F(有)竹長内

TEL.0774-62-7889 FAX.0774-66-4601

✉ office@kitagawatakashi.net

🌐 http://www.kitagawatakashi.net



これからどうなる？ 京田辺・井手・宇治田原



教育

Education



京都市「効果のある学校」

新しい学習指導要綱の実施にむけて、小学校の英語授業や、アクティブ・ラーニング視点での授業改善などの、新たな改革課題に対応し、市町村教育委員会と連携して積極的に取り組みます。

今

現状

- 平成30年当初予算:総額1,663億1,400万円計上
- 京都市「学力向上教育サポーター」事業費など実施
- 京都府のいじめは、1000人当たり96件と多く、スクールカウンセラーなどが不足している
- 教職員の働き方改革として、保護者と教員間のコミュニケーションに課題がある

これから

今後の課題

- ✓ 教育面における子どもの貧困対策の推進
- ✓ スクールカウンセラーの増員が必要
- ✓ 教職員の働き方改革が必要
- ✓ 教職員の対応力(第三者の活用も検討)
- ✓ 保護者に対する家庭教育支援の推進

井手町に特別支援学校が開校予定

平成33年4月(当初平成32年4月)を目標に、井手町に開校予定の特別支援学校は、小学部・中学部・高等部が設置され、知的障がい、肢体不自由の児童・生徒約200人の受け入れを想定しています。

今

現状

- 平成30年度:造成工事、校舎実施設計
- 地盤改良などで、1年間の完成遅れ

これから

今後の課題

- ✓ 平成33年完成に向けての対策が必要
- ✓ 対象者が増加傾向にある中、収容人数200名程度が妥当なのかを検証
- ✓ 雇用拡大に向けた学科の見直しが必要
- ✓ 教員の確保

交通・インフラ

Transport Infrastructure



山城多賀駅～玉水駅が複線化へ

「山城多賀駅～玉水駅」間が2022年度を目標に複線化される予定です。JR奈良線において、残り36%が単線の状態です。

今

現状

- 多賀駅～玉水駅間を複線化中
- 玉水駅の橋上化により、東西自由通路が完成

これから

今後の課題

- ✓ 残り区間の複線化の財源確保が課題
- ✓ 複線化の消極的なJR西日本との交渉に課題

学研都市線(片町線)の複線化に向けて

「松井山手駅～木津駅」間の複線化をJR西日本に対して、京都府・隣接市町村が要望している。

今

現状

- JR西日本に対して、京都府・隣接市町村が要望中
- 快速電車は1時間に4本の内2本が同志社前駅止まり

これから

今後の課題

- ✓ 複線化の財源確保が課題
- ✓ 複線化の推進ならびに、先行して快速電車を祝園駅まで延伸



宇治田原町の国道307号線の渋滞解消のために

宇治木屋線(南バイパス)から町道第1南北線までの区間を整備することにより、町道と一体となって国道307号を補完する道路網を形成するものです。総事業費は、約11億円です。

今

現状

- 事業概要:用地測量 橋梁詳細設計進行中
- 事業費:0.4億円
- 平成35年度を開通目標としているが、奥山田バイパス事業の遅延など開通目標がずれ込む可能性

これから

今後の課題

- ✓ 奥山田バイパスが完成すると、奥山田の離合困難が解消され、滋賀県からの大型車の通行が増えるため、宇治田原山手線の早期完成、城陽地域の307号線の改良が必要

国道宇治木津線の早期完成を

国が整備する方針の城陽市と井手町、木津川市を結ぶ新国道「宇治木津線」に向け、必要となる地元手続きが始まった。

今

現状

- 詳細ルート・構造の検討中
- 住民説明会を実施
- 3市町と府は本年度中の都市計画決定を目指す

これから

今後の課題

- ✓ スムーズな用地買収
- ✓ 地質調査などにより、ルート変更、予算増の可能性

